

# 安曇野を愛した「田舎のモーツァルト」の詩人

## 尾崎 喜八(おざき きはち) 東京・京橋出身

＜喜八が活躍した時代＞ 1892(明治 25)年～1974(昭和 49)年 享年 82 歳

明治				大正			昭和												
25	37	42	44	5	10	11	20	21	27	30	34	41	49	60					
東京・京橋の商家に誕生す	科、華文、英語、学業、入学生、理国	読みふける作品、英語、本	銀行勤め、卒業、流本	分る。省。友を。は。め。雑。誌。を。見	三。省。堂。と。太。強	初。め。村。光。郎。知。り。め。強	と。し。白。樺。出。版。さ。れ。の。本	口。マ。の。音。新。論。集	と。め。が。載。る。よ。う。ど。に。自。作。雑。誌。と。せ。は。筆	版。最。初。の。詩。集。『空と樹木』を	空襲で家を失う。終戦。	娘。夫。の。疎。開。に。移。住。す。野。島	歌。を。作。詞。す。高。等。女。学。校。の。校	帰。京。す。豊。高。等。女。学。校。の。校	詩。集。『花咲ける孤独』を出版	出。版。す。『尾崎喜八詩文集』全七巻を	詩。集。『田舎のモーツァルト』	鎌倉で病死する。	穂高東中学校(現在の穂高東中学校)に詩碑が建立される。



幼少期より理科に親しみ、青年期に「白樺」と出会ったことで自由主義や西洋の芸術にも関心を深めた喜八は、自然を詠う詩人、音楽を語る詩人として有名になっていきます。そんな彼の作品に多く登場したのが信州でした。富士見村で7年間暮らし、その後旅人として信州を訪れ、ここ安曇野にもその足跡を残しています。

### ☆喜八と安曇野①穂高中学校(現在の穂高東中学校)での「田舎のモーツァルト」

中学の音楽室でピアノが鳴っている。  
生徒たちは 男も女も  
両手を膝に、目をすえて、  
きらめくような、流れるような、  
音の造形に聴き入っている。  
そとは秋晴れの安曇平、  
青い常念と黄ばんだアカシア。  
自然にも形成と傾聴のあるこの田舎で  
新任の若い女の先生が孜孜として  
モーツァルトのみごとなロンドを弾いている。

喜八が大町に住む友人に誘われて同校を参観し、音楽室でモーツァルトの「トルコ行進曲」を聴いている際の情景を詠っており、彼にとって特に思い入れのある作品と言われています。1985(昭和 60)年には同校の敷地内に「田舎のモーツァルト」の詩碑が建立され、同校では 1999(平成 11)年から「田舎のモーツァルト音楽祭」を開催し、敷地が穂高東中学校に受け継がれてからも続けられています。



詩碑と校舎

### ☆喜八と安曇野②豊科高等女学校(現在の豊科高等学校)の校歌を作詞

日の本の国のまなかに  
山秀で水もさやけき信濃路や  
その安曇野の朝夕を  
ゆたの実りの豊科に  
いらかそびえて窓清く  
立てる学舎われらの母校 (1番)

豊科高等女学校の創立 30 周年を記念して、それまでに2回講演に招かれるなど関係が深かった喜八に作詞が依頼されました。喜八は同校をふくめ、40 の学校の校歌の作詞をしています。作詞の際には必ずその学校まで出向き、校庭から周囲の風景や校舎を見ることを大切にしていたそうです。また、豊科高等女学校の下見の帰りのできごとを詠った「安曇野」という詩も残されています。

参考文献 「安曇野文芸 No.2」 2000 安曇野文芸の会 ・「孜孜として—安曇野 穂高町の人物群像」 2000 穂高中学校

・「校長講話集『空を見よ』—尾崎喜八 荻原碌山 司馬遼太郎のことなど—」高坂邦彦 2002 高坂先生講話集刊行会

・詩人 尾崎喜八HP ・尾崎喜八文学館HP ・長野県豊科高等学校HP